

第 8 回 神奈川県移動性（モビリティ）向上委員会 議事要旨

1.日 時：平成 22 年 3 月 2 日（水）10：00～12：00

2.場 所：AP 横浜駅西口 4 階 E 会議室

3.出席者：出席者名簿参照

4.議 事：

（1）第 7 回委員会の議事要旨

・特に意見はなく、承認された。

（2）要対策箇所の事業進捗状況

Q1：要対策箇所（13 地区 34 ヶ所）に対して対策完了期限を明確にして欲しい。仮に予定年次で完了ができなくとも、その際、理由を明確に説明する事で理解が図られる。これによって、用地買収等の通常では年月がかかるものについて、住民の協力が得られるのではないのか。（市民委員）

A：現在、可能な範囲で要対策箇所の個別カルテで 34 ヶ所中 19 ヶ所については完了予定を示している。

また、用地買収などの相手がいること、予算確保の問題、公表することによる民間企業に対する影響を考えると完了予定を明示するのは難しい面もある。（事務局）

A：要対策箇所の個別カルテに、目標年次の項目を追加し、可能な範囲で提示すること。（委員長）

【対応】

要対策箇所の個別カルテに目標年次の項目を追加し、記載可能な事業については提示した

Q2：原宿交差点の上り線供用によって渋滞の緩和、解消により、主な「並行道路」の交通量のみだけでなく、それ以外の細街路を含めた交通量の減少、それによる事故の減少という効果が期待される。

細街路の交通量の減少による効果は、地域の実感にも即したものであり、積極的な PR が必要である。（委員長）

A：地域住民、周辺小学校、バスのドライバーより細街路の交通量が減少していると報告がある。事故の減少効果も期待できる。今後、上下線供用後は細街路の交通状況を整理し報告する。（事務局）

【対応】

議事 2 - 2（2）要対策箇所の対策実施状況のフォローアップで説明

Q3：平成22年2月28日にさがみ縦貫道海老名JCT～海老名IC間の供用による周辺道路の渋滞が緩和されたと報告を受けている。供用によって新たな要対策箇所No.8戸田交差点、No.13東河内交差点の渋滞が改善されているようである。今後、さがみ縦貫供用後のデータを含めた新たな要対策候補箇所の評価が必要である。(神奈川県)

A：今後、さがみ縦貫道海老名JCT～海老名IC間だけでなく一般道も含めた交通状況を整理し供用による影響を整理する予定である。(中日本高速道路)

【対応】

参考資料3 - 2 圏央道海老名JCT～海老名IC間開通後半年間の交通状況と整備効果

(3) 新たな要対策候補箇所の抽出

Q4：公共事業の予算が削減される中で、新たに14ヶ所の要対策候補箇所を挙げているが、これは要対策箇所と同時平行で対策を実施するということか。考え方を教えて欲しい。(神奈川県)

A：基本的に要対策箇所において優先的に対策を実施する。要対策候補箇所の38ヶ所はすぐに要対策箇所とならない。しかし、課題がある箇所としてあげておく必要はあると考えている。また、要対策候補箇所対策が可能な箇所は、随時実施していく考えである。(事務局)

A：渋滞箇所は生活環境に大きく影響があるので、積極的な対応が必要である。本当に地域で困っている箇所は、積極的に対策を実施していく必要がある。(委員長)

・前回会議内で事務局より回答済み

・議事2 - 2(4) 新たな要対策箇所の選定で説明

Q5：VICSデータから抽出した新たな要対策候補箇所(14ヶ所)は、現場の渋滞状況の実感と一致しないところがある。例えば1の西神奈川交差点はデータ的には混雑しているが、ここがそんなに混雑している実感が無い。そうすると選定方法でパブリックコメントによって38+ヶ所としているが、38-ヶ所となり要対策候補箇所数が減ることもあるのか。(横浜市)

A：新たな要対策候補箇所の抽出に用いたVICSデータは機械が抽出したデータであり、今回はその客観的データを用いた。今後アンケート等で市民の意見等から実感と一致する箇所の抽出を図っていきたい。(横浜国道)

前回会議内で事務局より回答済み

Q6：VICS データからの抽出箇所は、何か他のデータから精査する予定はあるのか。(委員長)

A：現在は VICS データのみで精査する予定である。(事務局)

【対応内容】

VICS データ以外に、民間プローブデータを活用して分析を行った。それぞれの特色を生かして使っていく予定。

Q7：VICS データの取り方として、休日の観光交通を考えると季節変動の影響が大きいのではないのか。休日を 11 月データのみで決めてしまうことに問題がある。(川崎市)

A：VICS データは年間を通じて取得しているので、他の休日でも同様の整理を検討する(事務局)

【確認】

平日は 9 月、2 月のデータを使用し、休日は 5 月 GW、8 月、お盆、9 月、11 月、2 月のデータを使用している

Q8：神奈川県移動性向上委員会では主に平日を対象としているが、今後観光地周辺等については休日を含めた年間を通じた分析も考えて欲しい。(委員長)

A：今後検討する。

【対応内容】

観光地周辺の対策箇所である小田原市、箱根町の交通状況に関する分析に休日データを利用し分析している

(4) その他の事業

Q9：神奈川県下の一部の道路(新湘南バイパス、箱根新道、西湖バイパス)で無料化実験が予定されている。その効果、影響を考える必要がある。(横浜市)

A：道路管理者としても無料化による問題点を踏まえ、改善を図っていくことが必要だと考えている。例えば、無料化となる道路(新湘南バイパス、箱根新道、西湖バイパス)の東名高速道路利用からの転換も考えられる。その場合は、原宿交差点に対して少なからず影響が想定される。可能な範囲で対策を検討していく。(事務局)

・前回会議内で事務局より回答済み

・無料化実験により新湘南バイパスの交通量は実験前に比べ 206%、西湖バイパスは 163%、箱根新道は 169%、並行する一般道の交通量はそれぞれ 82%、68%、109%となっている。影響については今後分析を進めていく

・無料化実験による原宿交差点への影響については、議事 2 - 2 (2) 要対策箇所の対策実施状況のフォローアップで説明

Q10；本日の資料に関しては概ね合意を頂いた。ただし、新たな要対策候補箇所については十分に精査したうえで抽出する。（委員長）

A：十分に精査したうえで委員長、委員に報告する。（事務局）

前回会議内で事務局より回答済み

以 上